

2位に5打差の圧勝

林田3兄弟の末弟が初V

唯一人アンダーパーの2アンダー70

林田 聖也（福岡・吉田小6年）



【写真は⑥から2位の張、優勝の林田、3位の出利葉】

ぶっちぎりの優勝だ。唯一人のアンダーパー70。2位との差「5」が物語る。小学生の中に中学生が1人混じっているような感じだった。「パットは良くなかったけど、ドライバーやアイアンが良かった。ほとんどパーオンした」と林田がかわいい笑顔でラウンドを振り返った。出だしの1番で1mにつけて幸先のいいバーディー、続く2番では10mのスネークラインもねじ込んで2ホールで2アンダーだ。その後は2バーディー、2ボギー。ただ、本人に言わせると「パットが入っていたら67、68は出たかも」とショットの安定が初優勝につながった。練習ラウンドには5度訪れ、大会前日の24日はこの日と同じ70でラウンド。好調をキープして臨んだ本戦だった。さらに、サスペンデッドが決定する前にすでにホールアウトするなど巡り合わせも良かった。

ゴルフは3歳から始める。父・信男は競技ゴルファーで、長兄・卓也（TGA）、次兄・

直也（日大1年）とゴルフ界では有名な林田3兄弟の末弟。クラブを握るのは食事を摂るのと同じくらい当然の成り行きであった。北九州市の自宅には8 y × 4 y のパタールームと3 m 四方のアプローチなどをする部屋も完備。林田はパターマットで「50発連続で入らないと、ミスしたらまた最初から」と自らにプレッシャーをかけて練習に励む。兄たちは「目標であり、ライバルであるが、負けたくない」とファイトを燃やす。

体はこの1年間でスケールアップした。身長が8 cm高くなって162 cm、体重は6 kg増えて62 kgに。お陰でドライバーの飛距離も15 y伸びて230 yとなった。「全国大会でも全部優勝したい」と自信をみなぎらせる。

目標達成の初優勝

世界ジュニア14位の実力

2バーディー、3ボギーの73

嶋田 もみじ（福岡・碓井義務教育学校5年）



【写真は優勝した嶋田[Ⓔ]と母・さゆりさん】

嶋田は7月11日から3日間、米国サンディエゴで開かれた「PGM世界ジュニア」に日本代表として出場。自身、初の海外での試合は77・70・74のトータル221で9～10歳女子の部で79人中、14位に入った。「グリーンがバミューダ芝で難しかった」。その2週間後の本大会。1番でボギースタートとなったものの、3番で10mの長いバーディーパットを決め、6番では残り15yを58度でチップインバーディーとしてアウトを35。11番でスコアを1つ落とし、14番ロングの第2打を打ち終わってサスペンデッドのホーンを聞いた。

嶋田は毎試合ではないが、スタート前に母・ゆりこさん宛てにその日の目標を記す。この日は「37・37で優勝」だった。思いもよらないサスペンデッドとなり、目標は「35・36で優勝」に変わる。再開後は15番でボギーを叩き、後半のインは38。それでも当初目指したものは達成し、世界ジュニア代表の力を見せつけたのである。「練習ラウンドより良かった。パターが良かった」。4度の練習ラウンドでのベストスコアは77。それを4打も縮めたのだから満足できる戦いとなった。

父・一平さんのプレーを見て「楽しそう」と小学1年から始めたゴルフ。今では最も楽しいのは「バーディー取った時」という。バーディー量産のために毎日2時間の練習をこなしているが、そのうちの半分は苦手とする30y前後のアプローチ。ドライバーの飛距離は昨年より20y伸びて220y。課題はグリーン周りとパットの克服である。

小学生の大会は6年生が勝つケースが目立つが、嶋田はまだ5年生。来年は誰も成し遂げていない連覇に挑む。



濃霧に覆われた会場